

東南アジア諸国の環境事情 と JICAの環境問題への取組み

JICA地球環境部
アドバイザー 須藤 和男

平成20年3月27日

1 国際協力機構 (JICA) の概要

(1) 事業

政府ベースの技術協力等を実施する機関として、開発途上地域が社会・経済面で自立的・持続的に発展できるよう、制度構築・組織強化・人材育成のための協力活動を実施。

最近の新たな分野での事業展開

- ・HIV/エイズやSARSなど感染症対策支援
- ・市場経済化や法整備に対する支援
- ・平和構築・復興支援など

(2) 沿革

・1974年(昭和49年)8月: 国際協力事業団(JICA) 設立

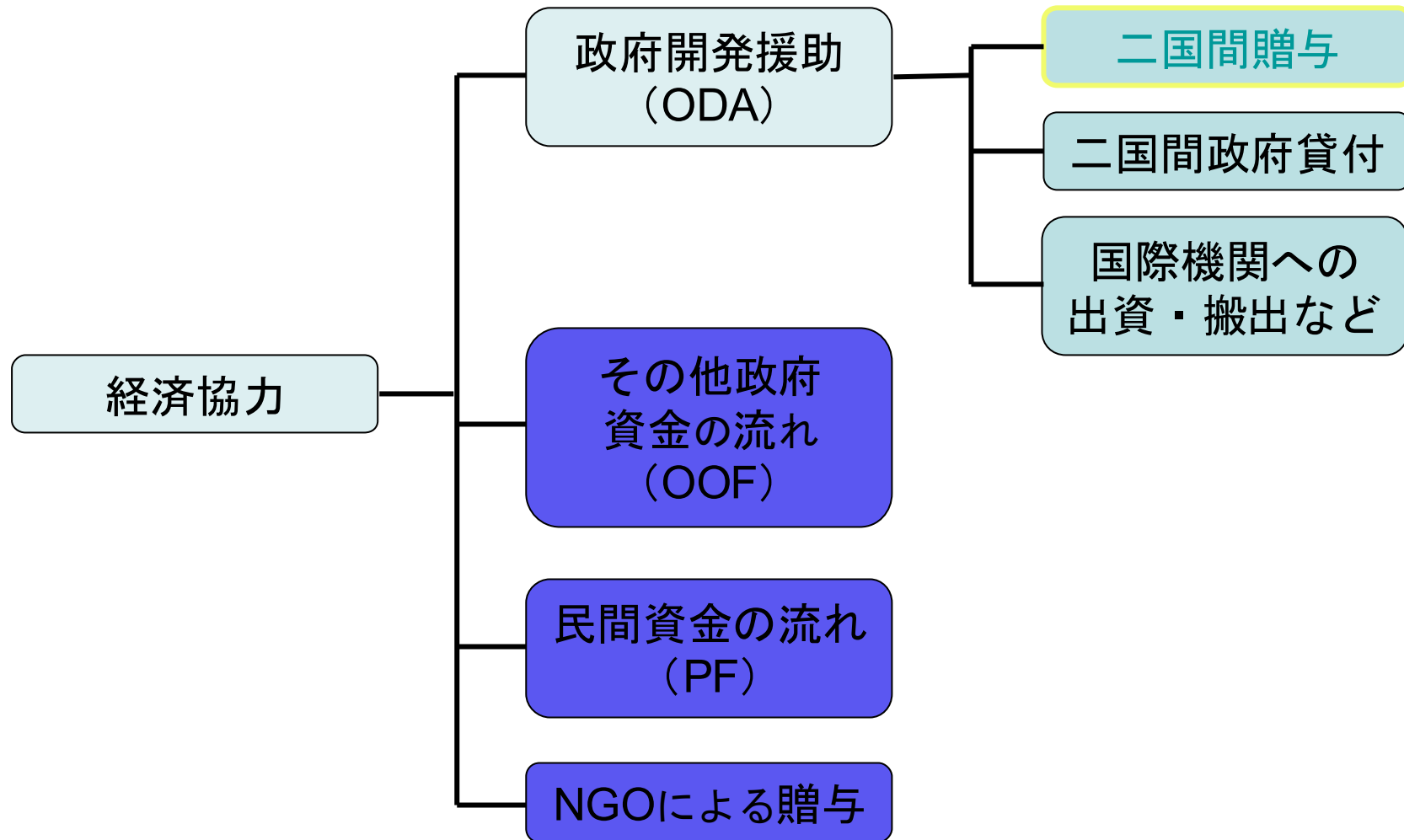
【海外技術協力事業団(1962年設立)と海外移住事業団(1963年設立)を統合】

・2003年(平成15年)10月: 独立行政法人国際協力機構発足

参考

- ・1965年(昭和40年)4月: 日本青年海外協力隊事業を開始
- ・1987年(昭和62年)9月: 国際緊急援助隊事業を開始

我が国の経済協力(1/2)



出典：「JICA年報2001年度版」

我が国の経済協力(2/2)

二国間贈与

技術協力

研修員受入

開発調査

専門家派遣

青年海外協力隊
派遣

機材供与

国際緊急援助

その他

無償資金協力

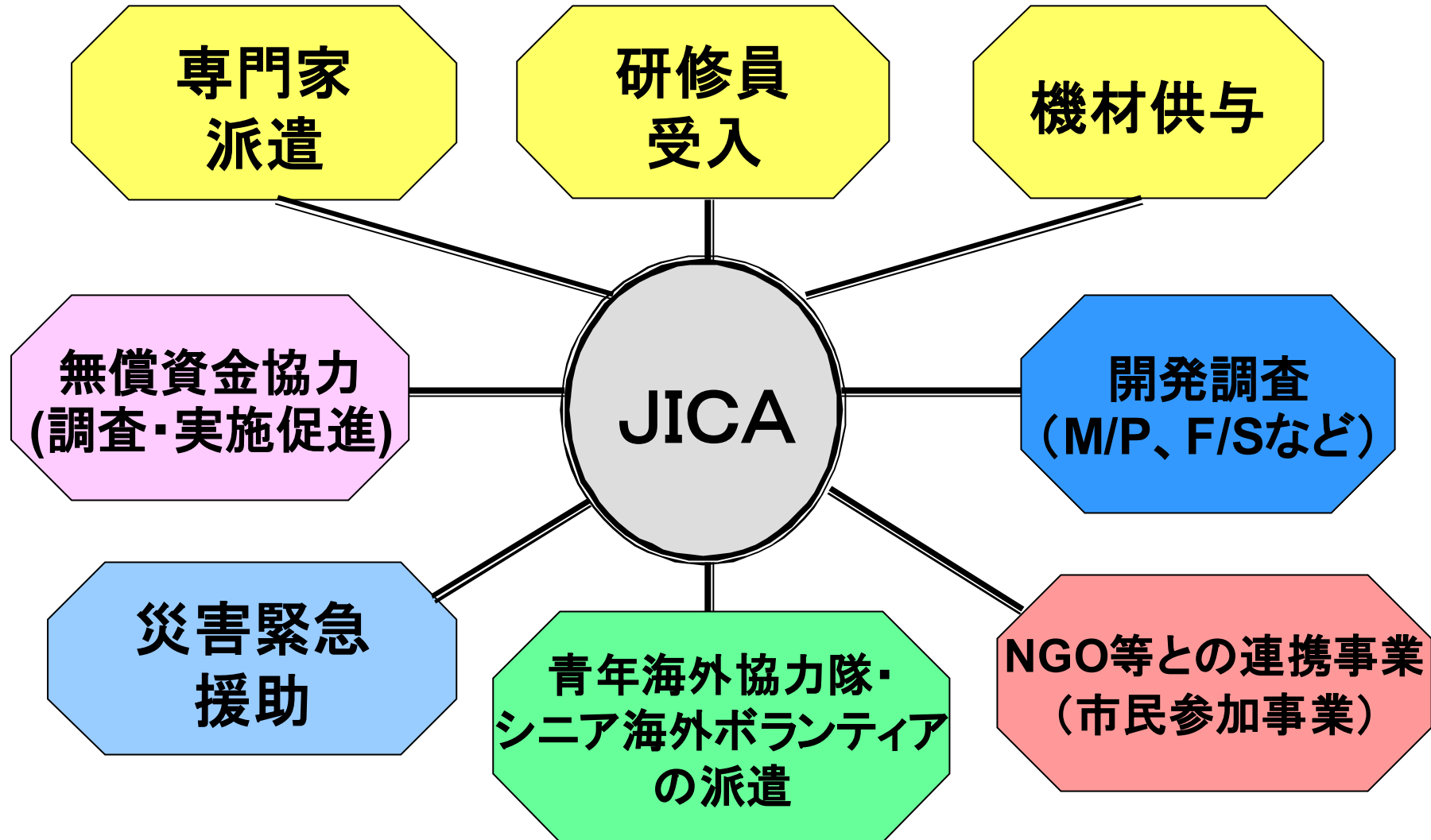
経済開発
などの援助

食糧増産
などの援助

(一般無償、水産無償、
緊急無償、文化無償)

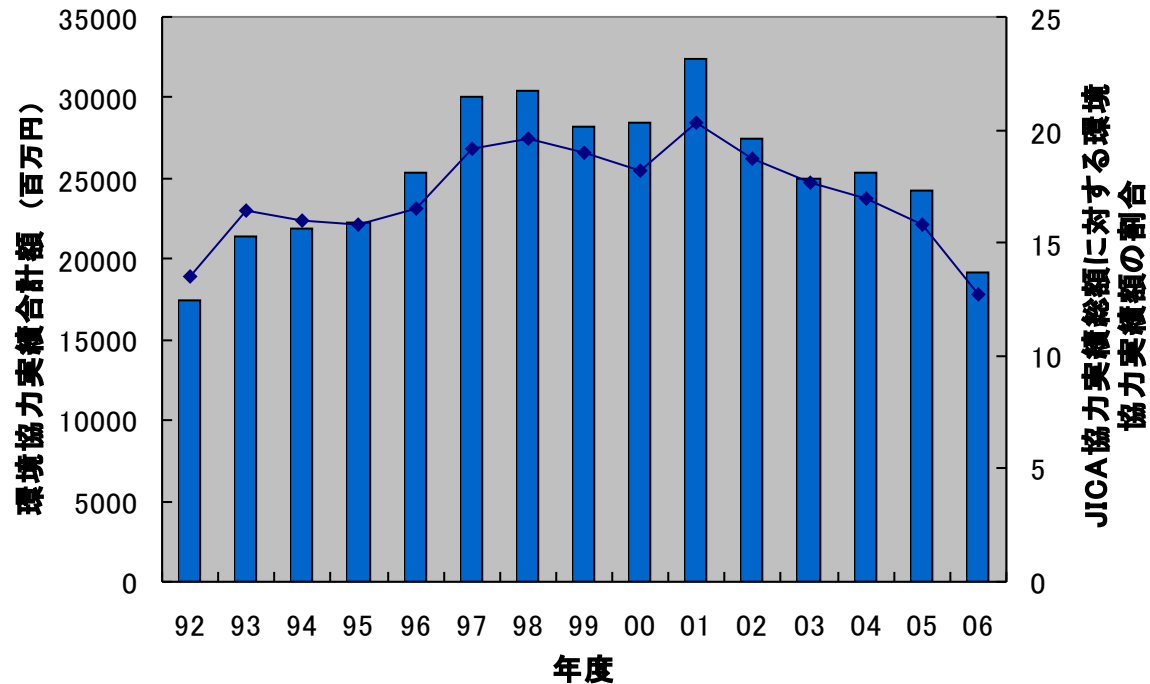
(食糧援助、食糧増産援助)

(3) 主な事業の内容



JICAの環境分野への援助額

JICA環境協力実績 (1992～2006年度)



【環境協力分野】

- 大気汚染対策
- 水質汚濁対策
- 複合他公害対策
- 廃棄物
- 上水道・飲料水開発
- 下水道開発
- 森林保全・緑化
- 生物多様性保全
- 自然資源管理
- 省、代替エネルギー
- 防災
- 環境管理、行政
- 複合、環境対処能力他

■ 環境実績合計

◆ 協力総額に対する環境協力実績の割合

地球環境部の概要

地球環境部

第一G
(森林・自然環境)

森林・自然環境第1チーム

アジア・太平洋地域の森林・自然環境保全、森林・自然環境行政、環境教育、参加型天然資源管理

森林・自然環境第2チーム

中南米・アフリカその他地域の森林・自然環境保全、森林・自然環境行政、環境教育、参加型天然資源管理

第二G
(環境管理)

環境管理第1チーム

環境行政一般、環境モニタリング、環境調査研究・研修、大気汚染対策(含:地球温暖化、オゾン層保護)

環境管理第2チーム

水質汚濁対策、土壌汚染対策、廃棄物処理

第三G
(水資源・防災)

水資源第1チーム

アジア、太平洋、東欧地域における水資源開発(総合水資源管理、水供給等)

水資源第2チーム

アフリカ・中近東、中南米地域における水資源開発(総合水資源管理、水供給等)

防災チーム

防災(地震・火山対策、治水、気象等)

ASEAN諸国と日本

ASEAN諸国 と 日本 (統計基礎資料)

2008.03作成

項目 国名	総人口(万人)(2006)	名目GDP(億米ドル)(2006)	一人当たりGDP(2006)	改善された水源を継続して利用できる人口の比率(2004)	CO2排出量(一人当たりt)(2003)	最裕福層20%の最貧層20%に対する比率*
ブルネイ	38	64	16,842	-	12.7	-
カンボジア	1,435	72	502	41	(.)**	6.9
インドネシア	22,304	3,645	1,634	77	1.4	5.2
ラオス	577	34	589	51	0.2	5.4
マレーシア	2,577	1,489	5,778	99	6.4	12.4
ミャンマー	5,096	130	255	78	0.2	-
フィリピン	8,459	1,169	1,382	85	1	9.7
シンガポール	439	1,322	30,114	100	11.3	9.7
タイ	6,472	2,062	3,186	99	3.9	7.7
ベトナム	8,411	609	724	85	0.9	6
日本	12,757	43,401	34,021	100	9.7	3.4

出所: UNDP (2006) 人間開発報告書 (日本語版) (安全な飲料水へのアクセス、CO2排出量、最裕福層20%の最貧層20%に対する比率)
World Bank (2007) WDI オンラインデータ (総人口、名目GDP、一人当たりGDP)

* World Bank 2006 の所得と消費についてのデータを元にUNDPが算出

** 0<(.)<0.05



ASEAN環境分野の重点課題

- ・森林火災と越境煙害問題
- ・持続可能な森林管理（違法伐採対策を含む）
- ・自然公園及び保護区の持続的管理
- ・野生動植物の持続的な利用
- ・淡水資源管理
- ・沿岸及び海洋資源管理
- ・都市環境管理（大気汚染・水質汚濁対策、ごみ処理等）
- ・環境保全技術とクリーナープロダクションの普及
- ・環境モニタリング、解析、データベースの整備
- ・市民啓発及び環境教育
- ・地球環境問題への取り組み

マレーシア ボルネオ生物多様性・生態系保全 プログラム(フェーズ2)



1. マレーシア国概要



指標 (2005年)	マレーシア	サバ州
人口 (100万)	25.9	2.6
GDP (10億US\$)	130.6	4.4
GDP/人 (US\$)	5,042	1,692
経済成長率	5.3	5.5
面積 (km ²)	約33.0万	約7.4万

2. 対マレーシアJICA国別事業実施計画上の位置付け

援助重点分野

経済連携推進(※)

環境と持続的開発

社会福祉向上

非伝統的安全保障

南南協力拡充

プログラム

環境保全

(1) 自然環境保全:
包括的取り組みの推進

(2) 都市衛生対策:
都市衛生対策能力の向上



(※) 日マ経済連携協定(EPA)において環境分野の協力を合意

3. マレーシアにおける自然環境保全に関する政策

■生物多様性保全国家政策

(1998年)

- ・生物多様性保全・研究・持続的利用を推進
- ・生物の多様性に関する世界的センターを目指す



■第9次マレーシア計画(国家計画)(2006年)

- ・規制の整備、保護区に対する管理計画の策定
- ・絶滅危惧種の特定、動植物データベースの整備



4. ボルネオ島の生物多様性

■貴重な熱帯林の宝庫

- ・ 熱帯林には、**すべての生物種の50%以上**が棲息
- ・ **世界3大熱帯林地帯**の1つ
- ・ 「地球の肺」である熱帯林の保全は、重要な**気候変動への対策**



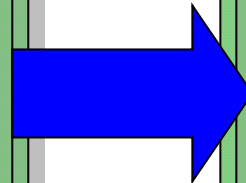
■生物多様性の豊かさとその危機

- ・ **メガ・ダイバーシティ**国（多くの固有種を含む多種・多数の生物が生息）17カ国の1つ
- ・ 世界3大熱帯林地帯で唯一の**ホットスポット**
（極めて生物多様性が豊かな一方で破壊の危機に直面している34地域）の1つに指定
- ・ **固有種の多さ、新種の発見、絶滅危惧種の増加**

5. ボルネオ島サバ州におけるフェーズ1開始時の状況と課題

状況

- 伐採やプランテーション化による森林の減少
- 生物多様性の減少と自然環境の悪化
- 自然資源に依存した人々の伝統的生活の破壊や貧困



課題

- 生物多様性や自然環境を把握する能力の向上
- 脆弱な保護区管理体制の整備・強化
- 生物多様性保全のための意識啓発

6. フェーズ1の成果と課題

<研究・教育>

- ・サバ大学「**熱帯生物学・保全研究所**」立上げ
- ・生物調査による動植物**標本の収集とデータベース作成**
- ・保全生物学分野などの**人材育成と能力強化**

<公園管理>

- ・**公園管理計画**の策定と**住民参加型の公園管理**の導入
- ・公園内の**定期・定点観測体制**の整備

<野生生物生息域管理>

- ・**新たな保護区**を設置
- ・住民参加の**エコツーリズム**と**動物モニタリング**を導入

<環境啓発>

- ・新たな**環境教育モデル**の提示
- ・サバ州**環境教育政策**を起草、承認手続き中
- ・生物多様性保全に関する**報道の増加**

■成果:

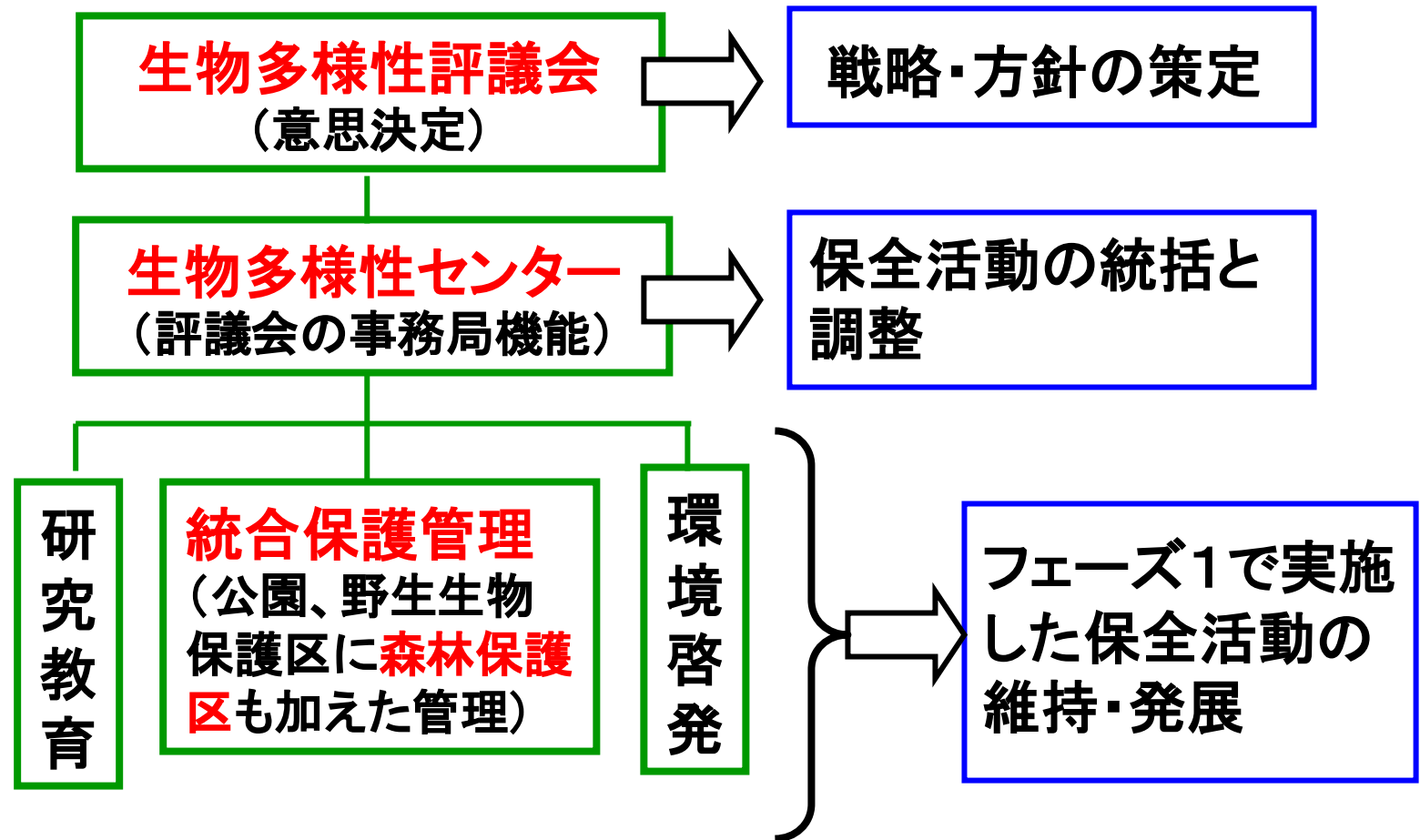
生物多様性保全を支える各分野の現場レベルでの保全のための包括的アプローチの基盤を整備

■課題:

サバ州における行政制度としての保全体制の確立と強化

7. フェーズ2のコンセプト

生物多様性評議会と生物多様性センターの機能化



8. フェーズ2プロジェクト概要

【上位目標】

サバ州の生物多様性・生態系保全の強化

【プロジェクト目標】

サバ州の生物多様性・生態系の保全体制の確立

【協力期間】

2007年9月～
2012年9月(5年)

【協力規模】

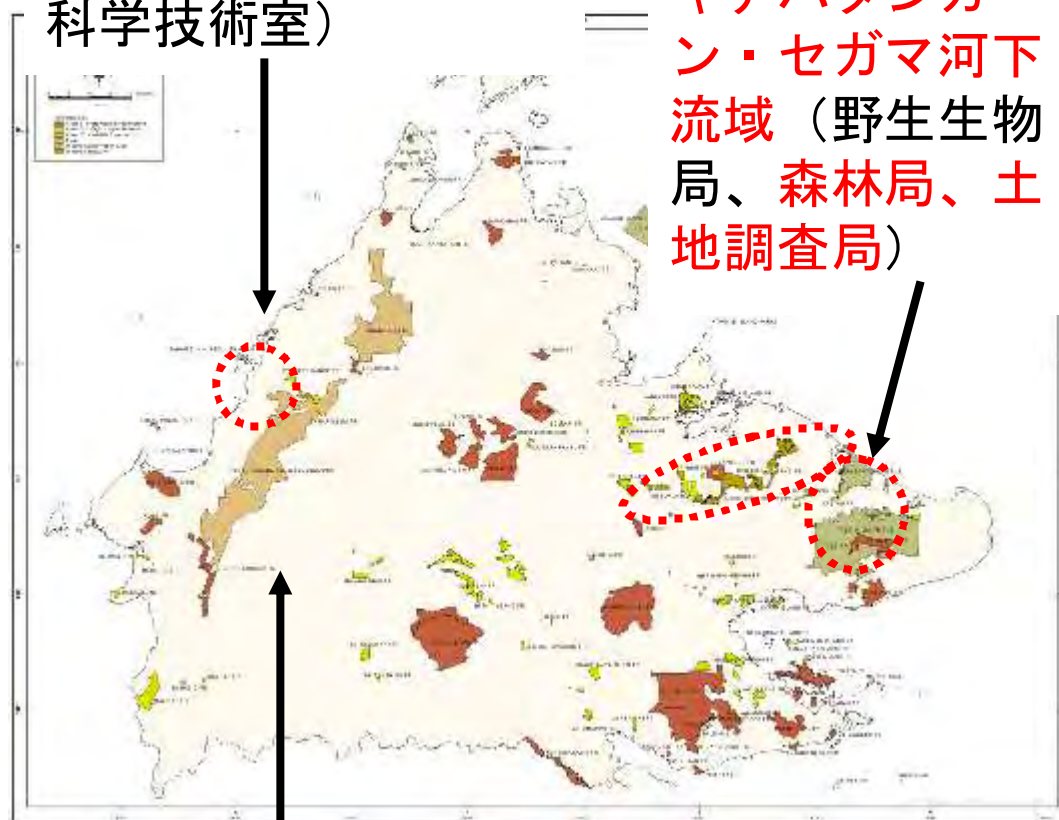
総額 約4.8億円
(長期専門家4名、
短期専門家15名程度、
C/P研修3名程度/年)

コタキナバル

(生物多様性評議会・
センター、サバ大学、
科学技術室)

サバ州

キナバタンガ
ン・セガマ河下
流域 (野生生物
局、森林局、土
地調査局)



クロッカー山脈公園
(サバ大学、公園局)